

## 特集

# 雪国の暮らしを支える除雪

日本は世界有数の雪国であり、古くから雪と共存する形で人々が生活している。雪解け水を活かした水田利用や農作業、その土地の歴史文化との関わり等、雪は地域にとって重要な役割を有している。

「除雪」と聞いた時に、雪国に住んだことのない人でも、除雪車による道路の除雪や建物の雪おろし等を、目にしたことはあるのではないだろうか。しかし多くの除雪は、深夜や早朝など人々の生活が始まる前に行われるため、雪国に住んでいても知らないことが多く、除雪は、いわば『暮らしを支える影の立役者』的存在である。

近年、数年おきに発生する大雪に伴う大規模な車両滞留や交通機関の麻痺等、ニュースで取り上げられる場面もあり、これらにはマイナスなイメージが付きまとうことが多い。本来感謝されるべき除雪は、今やできていて当たり前の社会インフラとして認識されており、問題が発生した際には、不満や苦情の対象になりやすいのも実情である。

そこで本特集では、普段あまり知られていない除雪に着目し、除雪に対するマイナスイメージを払拭できるよう、地域を支える技術やノウハウ、地域再生等の新たな可能性にも光を当てることで、雪国での雪との関わり方について、理解を深める機会としたい。

- ① 冬の米沢駅ホーム（山形県米沢市）／高見元久
- ② 駐車場の消雪パイプ
- ③ 上越妙高駅の融雪スプリンクラー（新潟県上越市）／高見元久
- ④ 雪よけの屋根「雁木」（青森県黒石市）／塚本敏行
- ⑤ 宗谷本線のラッセル車
- ⑥ 庭の除雪
- ⑦ 屋根の雪おろし（山形県酒田市）／越後雪かき道場
- ⑧ 直江津駅前の集団登校（新潟県上越市）／高見元久
- ⑨ 横手のかまくら（秋田県横手市）／秋田県観光文化スポーツ部観光振興課、一般社団法人秋田県観光連盟

